

### (3) 川・池沼の行動計画

#### 1) 生物多様性に配慮した水辺の管理 (河川・ため池)

水辺には多くの生き物が生息しており、生態系ネットワークを形成する上で非常に重要な役割を果たしています。水辺に生息する生き物の多くはその周辺に生息している植物の影響を受けやすいことから、時期や範囲などに配慮をした川辺の除草や樹木の剪定を行うことにより、ホタルやモリアオガエルといった様々な生き物が生息する水辺環境を保全します。また、河川流域では様々な活動団体が水辺の生き物観察会や河川敷清掃などの様々な活動を展開しています。これらの団体の活動を支援するとともに、連携して生物多様性に配慮した水辺の管理を行います。



©仁川広河原

#### 2) 希少生物の保護

昔は川や水路でよく見かけたメダカも今では希少種となっています。そのため、川の環境学習施設である環境学習サポートセンターでは、メダカやカワバタモロコといった希少な水生生物の展示、メダカなどの飼い方教室、身近な水生生物とふれあえるイベントの開催などをすることで、自然や生き物の大切さを感じる機会を提供します。

また、市内公立保育所のビオトープなどの、希少な水生生物が生息できる場所を増やす取り組みを進めます。



©環境学習サポートセンター

#### 3) 湧水 (宮水など) の保全

西宮には、日本名水百選に選定された西宮の名水である宮水や、六甲山の山水、廣田神社のおすぎの水などの湧水が存在します。なかでも、宮水は六甲山系からの伏流水で、海に近いことから適度に塩分も含まれており、西宮独自の地形からなるお酒に適した水として、昔から西宮の酒造産業を支えています。しかし、湧水は開発などによる影響を受けやすく、お酒の品質に影響を及ぼすため、宮水保全条例を制定するほか、酒造会社で構成された「灘五郷酒造組合」などを中心に多様な主体が連携し、水量確保や水質保全のため周辺環境を守る活動を行います。



© 宮水発祥の地碑